

文化遺産活用事業意見交換会三和の宝紹介原稿

20220118

三和まちづくり協議会の朝日有一です。ここ2年間は、コロナ禍でもあり、活動を自粛していて、竹林伐採や草刈りなど屋外活動を中心に取り組んでいます。去年の山之上交流センターでの勉強会に参加して、プレゼンしたのと同じ内容ですので、二回目の方も見えるかと思いますが、よろしくお願ひします。

それでは、三和の宝を紹介する前に、三和町の概要を簡単に説明します。赤い境界線内が三和町です。

三和町面積は、15.40km² 美濃加茂市で一番の広さです。ご覧のように、ほとんどが山林です。住宅とか、田畑は、川浦川、廿屋川沿いです。一本道ですのでナビは必要ないです。

三和町の人口は、今年1月1日現在で、470人、世帯数は、190世帯となっています。市役所のホームページでわかりますが、1万人超える市街地があり、二番目に少ない隣の伊深町は1000人越えています。その差は歴然としています。

三和町における土砂災害等ハザードマップによると、住んでいるところの、ほとんどがレッドゾーン、イエローゾーンであることが理由のひとつかも知れません。

周りには、ゴルフ場がいくつかありますが、三和町内にはありません。昔、地盤調査で岩盤が多くゴルフ場に造成するには適さない。という話を聞いたことがあります。それは、地震に強い地区でもあると思います。じつは東日本東日本大震災のとき、昼寝

をされていて気が付かなかった人もいると聞きました。

また、昭和43年の8・17集中豪雨では、7名の犠牲者がでました。個人的ですが、当時、土砂崩れしそうなところはすべて崩れてきて砂防ダムもできたので、今後は土砂災害の心配はないと思っておりますが、どうでしょうか。

右下の写真は、拡大して林道が見えるようにしています。森林公社？が、材木の運搬のための林道を三和町に限らず、あちこちに林道を作っていると聞いています。山の中の白っぽいすじが林道ですが、これを「トレイルランニング」に使えないかという話も出ています。はっきりとした道は水無瀬林道といって、市が管理しています。

★それでは、「三和の宝を見つけよう、いかそう」の説明に入ります。私たちは見つけた三和の宝を、町内外にアピールして、三和町に「行ってみたい！住んでみたい！住みつづけたい！」人をさがしています。

★まち協は、6年前から部会制で活動をしています。「空き家部会」「環境整備部会」「御殿山キャンプ場部会」など7つの部会があり、部会長と自治会長や各種団体代表者で構成されています。

★7年前名古屋大学高野雅夫教授と当時の市長との講演で、高野先生から「三和町は、このまま何もしないで過ごすとも人口が危機的に減少するが、若い世代が年に2組以上の移住してくれば、今の状態が維持できる。」という話をいただき、空き家の調査をし、空き家の提供をお願いし、希望する方に空き家を紹介してきました。いままでに5組の方たちと関わってきました。まず三和町を知ってもらう、来てもらうことが大事で、合言葉の、行ってみたい！住んでみたい！住みつづけたい！につながるように、各部会でいろいろな取組みを行ってきました。

現在中学生以下の子どもたちの人数は、46人いて、そのうち移住してきたお子さんたちは、10人となっています。これは定住促進住宅の皆さんのお子さんたちは入っていませんので、もう少し多くのお子さんに来てもらっていることにはなりますが、こうして結果が出ていることは、率直にうれしいです。

★また、美濃加茂市の空き家バンク「みのかも時間」の取組みにも積極的に協力しています。現在三和町の登録は2件あります。先週の土曜日には、同じ物件の見学を希望する方が2組来られて、立会いもさせていただきました。他にも見学を希望している方が見えると聞いていますので、三和に住んでみたい方が見えることがわかりますが、なかなか提供いただける物件が少なく紹介できる物件が限られてきています。

ただ、先ほど中甘屋公民館裏の建物を見ていただきましたが、可児市へ出ている長男のお子さんが、東京で会社経営されていて、

廿屋実家のすべてを相続されていて、とりあえず空き家物件に登録すればいいかな。と思っておられたようです。近所の方が、空き家の相談だとまち協ということで、お話をいただき、まち協は、空き家を紹介して移住いただく若い人を探している、ここの川にはホテルが飛び交っていて見学に来る人も多い。などの話をしたところ、地域のために、この家を使いたい。ということになりました。今後はシェアハウスとして事業を進めたいという話を聞きましたが、動き出すのはこれからです。まち協は今までは個人で空き家を探している人のお手伝いをしてきましたが、事業としての取組みに立ち会うのは初めてで、どうなるのかワクワクしています。

★自分の地域を知るために「まちあるき」をしました。これは「三和の宝」をさがすための「まちあるき」でもあります。「円空」が住んでいたという洞穴とか、山登りもしました。

★御殿山キャンプ場は、市から委託され、まち協が管理運営をしています。アウトドアのブームで穴場である御殿山キャンプ場の利用者也増えてきたところでコロナでした。2年続けてオープンしてませんが、ピザ窯、BBQ小屋など用意しています。BBQ小屋はワークショップで建てました。オープンはしていませんが、キャンプ場の利用について、問合せはあります。

★4年前、三和の昔話を、当時の三和小学校山内校長先生を中心に紙芝居が作成されました。現在は美濃加茂市図書館スタッフにより、ユーチューブで見ることができます。

「三和郷土紙芝居」で検索して見てください。MINOKAMO 夏祭りに登場する「大蛇」は、三和の昔話が元になっています。

★納古山は、隣町の七宗町に位置し七宗町からのコースが有名で三和から登る人は少なかったため、コース案内の看板などを立て、パンフレットも作成しました。三和からのコースは上級コースと言われてはいますが、まち協で登ったときは保育園年長さんもがんばって登りました。標高が632.9mであり、頂上に立つと、目の位置は東京スカイツリー（634m）とほぼ同じというのも宣伝になるかと思います。

★まち協の活動は、三和町のために何かやりたいことがあれば、まち協で協力するので先頭に立ってね。というのが基本となっていて、盆踊り大会も6年前ここにみえる酒向さんが「盆踊り大会を復活させたい。」ということから始まりました。コロナで中止が続いていますが、6年前の復活大会から、みのかもお囃子同好会の生演奏で踊っています。他では、なかなか生演奏で踊るところはないので、その演奏を聞きに来る方も見えます。

★三和町は「源氏ボタル」が飛ぶところとして、この地域では有名で、飛ぶ時期になると、県内外から多くの方が見学に見えてクルマで混みあいます。三和小学校では、ホタルの保護活動を行っています。

★ホタルのえさである「かわにな」の養殖場もあります。ここの管理は、三和の源氏ボタルを守る会で行っています。今日は会長の坂本さんにも参加いただいています。

★目の前の三和小学校の全校児童は23名です。移住してきたご家族ばかりでなく、小規模特認校の制度をご利用したご家族もみえます。小規模特認校制度とは市内にお住いなら、どなたでも三和小学校へ通学できる。という制度です。三和小学校では45年続く源氏ボタルの保護活動、一輪車での演技活動、一人一台タブレット学習といった、特色のある教育が続けられています。ホタルの保護活動については、校長先生から説明いただけるかと思えます。

★桜並木は珍しくはないかと思いますが、春にはごらんのような風景が見られます。夜桜は、地元の方がライトアップを毎年準備していて、最近は見物の人も増えてきたようです。

★三和町へ来るには、関市、富加町、伊深町からは峠を通らなくても来ることができですが、昼間でも暗い「間見峠」、ヘアピンコースが続く「鯉下峠」、ジェットコースターのような「地蔵峠」などユニークな峠に囲まれています。自転車のグループがよく走っていて、休日はひよっとすると、クルマの通行量より多いかもしれません。

★市の三和町人口対策として、市営住宅の一部を定住促進住宅とし、家賃26000円で若い世代の入居ができるようにしていただきました。現在6世帯分満室なので、さらに増やしてもらうようお願いしているところです。春はさくら、初夏は源氏ぼたる、秋は紅葉 冬は積雪と、四季が楽しめます。

★60代の私たちより若い世代が、三和オリーブクラブというグループを作り、オリーブ畑を作ったり、ヤギの世話をしたりして三和町を元気にするため、子どもたちと一緒にいろいろな活動をしています。喫茶つみきのオーナーの都竹さんが代表です。都竹さんは、まち協が初めて空き家を紹介し、移住してくれた方です。喫茶つみきについては、お手元の冊子をご覧ください。

★3年目となる、農事法人「みわぼたる」は、美濃加茂市ではじめての農事法人です。三和町の田んぼは土地改良事業が済んでいますが、耕作放棄地も増えています。またほとんどが山林の地域ですので、山の仕事を専門にしている人が居そうですが、現役世

代ではいません。三和町は意外と市街地に近いため、美濃加茂市内、可児市などの市外の会社、工場へ勤める方が多いです。

★山の中ですので、当然「サル」「イノシシ」などの動物と出会います。東京では一匹のサルが全国ネットのニュースになりましたが、ここでは普通です。またイノシシが車にぶつかるということも起きるので、注意喚起の看板もあります。

★三和町で飲食できるところというと、3年前にオープンした「喫茶つみき」と、ほたるんばあさんの皆さん（おばさんたち）が月一回営業する「ほっとカフェ」です。「ほっとカフェ」には、毎回100人近くの方がモーニングに来ていましたが、現在はコロナで営業自粛しています。食料、日用品の買い物は、昔は3軒のお店がありましたが、いまは廃業されているので町外へ出掛けます。こんな山の中ですが、お店までクルマで15分と、意外と近いと思っていますが、どうでしょうか。

★三和町内には「川浦川」と「甘屋川」が流れていて、岐阜の「長良川」につながってます。53年前には、8・17集中豪雨という災害で7名の犠牲者が出ました。川浦川の川岸は災害復旧工事でコンクリートのブロックで積み上げられています。災害前には、いっぱい飛んでいた源氏ボタルもいなくなったのですが、三和小学校が取り組み始めたホタルの保護活動によってホタルが飛ぶようになりました。甘屋川では、思い出のホタルが飛ぶ場所とし

て、テレビ番組（関西系番組探偵ナイトスクープ）のロケもありました。また漁業組合により、毎年アユ、うなぎ、アマゴの放流がされています。

★御殿山は、市内で一番高い山（559m）で、毎年お祭りが行われています。また、昔話もいろいろ伝えられています。

★美濃加茂観光協会のホームページにある、奥山自然遊歩道はあまり手入れしてないですが、それがいいという声もあるようです。遊歩道というより登山道レベルの道となっています。

★三和は原木しいたけの菌糸発祥の地であります。大正時代、廿屋地区の天池武義さんがシイタケ栽培をはじめ、昭和10年代に四季を問わず収穫できる原木しいたけの菌糸を発見し、昭和30年頃は三和のシイタケ栽培がピークでした。今ではシイタケ菌糸を作っているのは3軒で、原木シイタケ栽培する人は数人となりました。

★おとし、三和小学校を卒業した2人が、三和町を紹介するパンフレットを作りました。三和小学校ホームページに載っています。（連絡所で用意してもらいましたので、お配りします。わかりやすくできています。）

★まち協は、これからも、こうした三和の宝をいかした活動をし
ながら「行ってみたい、住んでみたい、住み続けたい」人を見つ
けたいと思っています。

最初に、三和町について人口の話をしました。今まで何かのイベ
ントをするとき、参加できる人でやってきたわけですが、三和町
の人口470人すべてが、時間があって動ける元気な人ばかりで
はなく、イベントのスタッフ確保についても考えなければならな
い時期が来ているかなと思っています。

以上、紹介した三和の宝が、事業化につなぐことができるかどう
か、ワクワクしています。よろしくお願いします。

★ご清聴ありがとうございました。